

第10回関川流域委員会議事要旨

事務局

1. 概要

流域委員会中間報告会、7.11 災害フォーラムでの議論等を踏まえ、流域づくりの視点、主体、目標及び戦略を示した「関川流域における水の基本的な考え方（骨格）案」並びに、これからの活動の課題を踏まえた具体的な活動内容と流れを示した「関川流域委員会の今後の活動（案）」について、議論した。

「関川流域における水の基本的な考え方（骨格）案」については、各委員からの意見等を踏まえ一部修正した上で、流域委員会の案とするとともに、「関川流域委員会の今後の活動（案）」をもとに流域全体を対象として、具体的な合意形成のプロセスを進めていくこととなった。

2. 関川流域における水の基本的な考え方（骨格）案について

「1. 流域づくりの視点」について

- (1) 雪国の川である関川らしさを示すために、冬季の雪という言葉も必要である。
- (2) 水銀のことを記載する必要がある。
- (3) 保倉川付近の人達は、いかにして水抜きのために努力をしたのか、その辺を付け加える必要がある。

「2. 住民が主人公の流域づくり（主体）」について

- (3) 上流から下流まで必ずしも線だけじゃなく、面的にもつながった川を整備しようとする場合、我々全体の問題としてとらえようという意識を流域で持たないと、みんなが承諾する案を出すことは難しいと思う。議論していくプロセスの席に着いて、どの様にして決まっていくか、あるいはどの様に自分たちの意見を反映しながら決めていくかというような段階、段階が大事だと思う。

「3. 安全で親しみのもてる流域づくり（目標）」～「4. 時代を見通した流域づくり（戦略）」について

- (4) 大体どれくらいの時間的なスケールをもって提言するのかということ、例えば50年～100年を見越したというふうな記述、できれば冒頭に記載した方がいいのではないか。
- (5) (流域全体ではなく) それぞれの流域ごとに細分化した内容（提案、戦略）とし、住民が理解しやすい方法で提案する必要がある。

その他

- (6) この流域委員会は、河川整備に関する流域住民の意見を合意に導いて、整備計画に反映していくということが役目である。今、合意が図られてない段階であるということ乗り越えることが、流域委員会の一番大きな仕事である。

- (7) 文章自体は、とてもいい文章であり、(特に) 環境面に対する記述が非常にいい表現だと思う。環境面の記述はこれでよいのではないか。
- (8) 今後この骨格案をもとに具体的な話を進めていくところで、自治体の考え方というものを取り入れるようにすれば、効果的に進められると思う。
- (9) 3P4行目を「…困難な状況から住民合意を図りつつ」に修文する。

3. 今後の活動について

- (1) 流域住民が主人公でみんなが率先して考える、自分のところだけではなくて、周りも流域全体を見ながら考えていこうという土壌が、早くつくられていることが非常に大事である。
- (2) (自治会のアンケート結果等の) 素材を私たちは持っているので、このようなところ(分析結果等)をよりどころにしながら、合意形成の種を植えていくということが大事である。
- (3) 車座方式の意見交換会は非常に大事であり、都市部だけ、あるいは川の近くだけではなくて、流域全体でそのような草の根的な拠点ができると、全体の合意形成を図るひとつの基盤ができるのではないかなと思う。
- (4) 中堅層(40代)に関心を持ってもらうのは非常に大事なことだと思う。その仕掛けとして、(自治会によって構成は違うと思うが、自治会長の下の世代である) 班長の方々が出ていく場を持つのは、少なくとも大事である。また、7.11フォーラムでは、中学生、小学生に参加してもらい、非常にいい企画が進められた。次は、子供と親がセットで加わってもらえるような機会が、中堅世代の取り込みを考える上で非常に重要なひとつの戦略である。
- (5) 事あるたびに、どこまで進捗しているのかという質問がある。骨子案は(住民が期待している内容の) 前段ということだが、住民はそれ以後のことを早く知りたいという切実な立場だと判断している。今検討しているのは、科学的に果たして分流案になるのか、みんな心配している状況である。それを踏まえて骨子案を説明するため、できるだけ早目に進めてもらいたい。
- (6) 合意形成が一番大事だと思う。一旦(河川整備基本方針が) 出てから(住民との関係等が) おかしくなれば、取り返しのつかないことになるため、私たちが進めている委員会の会議(の進め方)は、非常にいいと思う。その中で、住民とのコンセンサスを詰める、その辺のタイミングをどのようにするか。説明の方向として、いつまでどうだということはある程度言わないと、単なる骨格程度であれば、余り住民も納得しないのではないかなと思う。
- (7) 関川流域における水の基本的な考え方はぶれないように、Q&Aのようなものを作成して、流域住民の方に対応していくという形で進めていきたい。
- (8) 第1段階として、1、2、3、4番目(車座方式意見交換会、川の見学会、住民参加型協議、関川流域フォーラム)ぐらいまでは、機を逸しないように適度なスピードで進めていく必要がある。そのことがまた効果を出すと思うので、(進め方も)気をつけていけたらいいと思う。
- (9) 3月まで(車座方式意見交換会の) 20自治会を終えるのは大変だと思うが、(4月ぐらいまでにはずれたとして、) 見学会は暖かくなるとできないということもあり、ワークショップとなると夏前ぐらいまで、フォーラムを秋初めぐらいに開くような意気込みで準備をすすめる。